
厨二病ですが何か？

石神梓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

厨二病ですが何か？

【Nコード】

N2283BA

【作者名】

石神梓

【あらすじ】

中学時代に、元ヤンとゆう経歴をもっている剣崎修一は、高校生活は中学時代の反省を活かし、落ち着いた生活を送りたいと考えている。しかし思春期真っ盛り、厨二病真っ盛りの中学二年生の妹、剣崎玲奈や、同じクラスになったクールビューティな女子、仲野結子の趣味を知ってしまったせいで、多忙な日々……修一に安息は来るのか！？

入学ですが何か？（前書き）

初投稿ってことで、いたらぬ所ばかりですが、ひろーい目で見てください。

入学ですが何か？

俺が高校に入って、
初の一学期がやってきた。

中学生の頃に、

「始業式早々遅刻する。」
とゆう愚行を

犯しまくっていた俺、

剣崎修一は、

高校生活ではもう二度と
そんな事がおきないよう
前日、春休みの最終日は
早めに夜9時に寝て、
今朝爽やかな朝を迎え、
現在シャワーを浴びて
ぼーっとした頭を
覚ましている。

中学の頃ほんの少し、
いや、まじちよーっとだけ
ヤンチャしていた俺は、
高校では落ち着いた
生活を送りたいって訳で、
初日から列を崩すような
事はしたくないのだ。

そしてさっぱりした俺は、

2階にある自室へ戻るため
パンツ一丁で階段を
上がり終ったとき

「あんた何時まで寝てんのよ!!」

と大声をあげて

ちよんど、パンツ!!と

朝っぱらから迷惑

極まらない音をたて、

妹が俺の部屋のドアを

思いきり蹴り開けやがった
ところだった。

… 全くその厨二病
全開の行動を止める。

「おい、朝からうるせえぞ。

そしてドアぐらい普通に、

手であけるや。玲奈。」

と後ろから声をかけると

「なにあんた、今日は早…

ってあんたなんか着なさいよ!!

このヘンタイ!! 隠せ!!」

振り向くなり、

パンツ一丁ごときで

顔を真っ赤にして、

忙しい奴だ。

「別に家族何だから、
関係ねえじゃん。」

「そんなの理由に
なんないわよ！
ちよつとは恥じらい
つて事を覚えたら！？」

「家族間でこれごとき、
恥じらいも何もねえよ。」

「あんだねえ！
お母さんに言い付けるよ！？」

「好きにしろー。
俺怒られるような事、
してねえし。」

「お母さーん！！修一が
ニヤニヤエロい顔しながら
裸見せ付けてくるー！！
助けてー！！」

「何言つてんのお前！？」

一階から
なにやってんの修一！！！！つて、
お袋からの怒声が
聞こえてくる。
焦って声、

裏返ってんだけど。

「誤解だお袋！！
お前も有らぬこと
ほざくな！！」

「キャー！！
こつちくんな！
お母さんまじ助けてー！！」

この厨二病真つ盛り
中学二年生の妹、
剣崎玲奈のおかげでこの後、
結局遅刻ぎりぎりまで
お袋による取調べが行われた。

…これから先が思いやられるわ。

あの後、時間がやばく
なった俺は、ダッシュで
何とか間に合ったが、
余裕をもって登校していた

これからの同級生に、
冷やかな目で見られる
とゆう仕打ちをくらった。

…まあ過ぎた事は忘よう。

そして現在、入学式。知った顔ぶりがいるか
少しキヨロキヨロいると、
幼なじみの紺野麻美が
手をぶんぶん振っている。
校長が話をしている、
ものすごく静かな中で
手を振ってる麻美に、
手を振り返すのが
少し恥ずかしかったので、

うん。

冷静にスルーしよう。

だって校長、

絶対気付いてんもん。

咳ばらいしながら、
麻美じゃなくて何故か
俺のことチラ睨んでんもん。
目線超いてーよ。

そろそろ諦めてください、

麻美。

んー、まあしかし、顔ぶれは何か落ち着いてるし、どこと無く知的っぽそう。な奴が多い感じだな。

この私立成明高校は、普通科と特進科に分かれている進学校だ。

俺は残念ながら普通科。

中学の頃は、（まあ今もだけど）頭がとてもお粗末だったので、麻美に勉強を必死に教わって、なんとか入学できた。ちなみに麻美は昔から、どっか間の抜けた天然さんなんだが、見かけによらず頭は超良いので苦も無く特進科受かった。流石俺の幼なじみ。

クラスは普通科も特進科もごっちゃらしく、各科必要な授業があれば、別々に授業を受けるらしい。

ってな訳で俺は、

何気に麻美と同じクラス。

つーか未だに、
小学生の頃から違うクラスに
なったことがねえんだよなあ。

まあ仲の良い奴が
同じクラスにいるのは、
いくらか気が楽で、
いいんだけどな。

何てぼけつと考えてたら、
いつの間にか入学式が
終わりを迎えた。それから新しい教室へ
案内され、向かっていると、
後ろからパタパタ麻美が
走ってきた。

「んもー、修ちゃんったら
私頑張って手振ってたのに、
何で振り帰してくれないのお？」

「あー、すまんすまん、
緊張してたから
全然気付かなかった。」

ごめん麻美、嘘。

「そつかあ、なら
しょうがないねえ。」

「麻美は寛大だなー。」

身長は極小だがな。

「でしょお？えっへん！」

何て無い胸を張る。

ホント変わんねえなあ、麻美は。色々。
中学からロリ体型の
ツインテール眼鏡が、
トレードマーク。

そして困ってる時は、
勉強でもなんでも
助けてくれる、

俺のこの世で唯一の
オアシスだ。ロリ体型のくせに、
心は婆ちゃんみてーだもん。

「なあにい？
そんなジーツと、
人の顔みてえ。」

「いやー？
麻美といると、
落ち着くなあって。」

「そ、そお？えへへ…」

そんな事を喋ってる間に、
教室に到着した。

俺の席は…

おつ、1番後ろか。
何だかんだ後ろの方が
落ち着くなあ。

これで窓際ならなあ…
と思い窓際の1番

後ろの席を見ると、
黒髪の綺麗な大人びた
女子が座っていた。

肌が透き通る様に白く、
顔もとても端正な
顔立ちをしていて、
左目の泣き黒子も何と云うか…
めちゃくちゃ魅力的だ。

ついつい見入って
しまっていたが、
その子はずっと窓の外を、
ぼーっと頬杖をついて
眺め続けていた。

しばらくして新担任になる、
窪田鳴海とゆう女教師が一人、
テンション高めに張り切って
自己紹介をしていたのだが、
何か質問がありますか？
などと言ってしまったのが
彼女の運のつきだったな…

見るからにアホっぽい男子に、
「何歳ですかー？」やら
「結婚してるのー？」やら
イタイ所ばっか突かれ、
教室の角で泣いてるよ…

しかし彼女はめげずに、
しっかりと質問に答え終え、
出席番号順に自己紹介を
することになった。

…頑張れ29歳独身。言ってやるな。

「うるっさいわねー！！」

かくして俺の番が回ってきた。
第一印象は大切だ。
シンプルかつ悪い印象を
与えないよう、
爽やかにキメるぞ、俺。

立ち上がり、

軽く深呼吸をする。

「剣崎修一です。」

これからよろしく。」と

俺的に、こやかにキメた

つもりだったんだが、

周りから

「夜露死苦とか、こわっ」とか

「剣崎って、あの剣崎？」とか

周りからぼそぼそ、

何か言ってるの聞こえる（泣）。

まさか俺の名前が、

そんな知れ渡っていたとは…

と中学時代の行いを

深あーく反省しつつ、

他の奴らの自己紹介を

聞いていたら、

最後のさっきの

綺麗な女子の番になった。

ついついどんな子なのか

気になり、耳を傾けていると、

「仲野結子よ。」

とだけ言って終了。

クールビューティってやつか？

もうクラスの男子くぎづけ。

その後、担任から
幾つかの連絡事項があり、
初日なので解散、
とゆうことになった。

入学ですが何か？（後書き）

いや、考えた事を文章にするのは大変な作業ですね。
自分の文章力の無さを思い知ります。

次回は結子の趣味を知ってしまう話です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2283ba/>

厨二病ですが何か？

2012年1月5日20時48分発行